

## 週刊 リスクマネー経済新聞

リスクマネジメント愛媛

## 先週の振り返り

## ◆ 先週の株式&amp;為替相場 (前週末比)

日経平均：27,670円 (+161円) /ドル円：131.24円/NY株式：33,869.27ドル (-57ドル)

◆先週の日経平均株価は小幅上昇となったものの上値の重い展開となりました。27,800円を上回ると戻り売り圧力が強まり押し戻されるというパターンが続いています。また決算発表が続く中でソフトバンクなど日経平均への寄与度が大きい銘柄が大幅下落したことが重荷となりました。

⇒週末に出てきた次期日銀総裁に関するニュースはサプライズとなりました。予想されていた雨宮氏が就任を辞退したことを受け、今後の金融政策の不透明感から一時円高が進みました。その後落ち着いたものの、雨宮氏の総裁就任を織り込んでいた日本株は波乱がありそうです。

【資金の流れ】 決算不調銘柄 ⇒ ハイテク株 米ドル ⇒ 円

## 注目トピック

## ◆住宅ローンに影響のあるマイナス金利解除！？ …金融政策の方向性

次期日銀総裁に関するサプライズ報道により、株式・為替市場ともに見通しづらい環境となっています。今後の金融政策の方向性に注目が集まりますが、個人に影響の大きい住宅ローンについて考えてみます。

## 【マイナス金利解除の影響…】

今の日銀は長期金利 (=固定型ローンに影響) と短期政策金利 (=変動型ローンに影響) の両方を操作しています。昨年末は長期金利の容認上限引き上げに動いたため、現在固定型ローンが上昇しています。日銀はいずれ短期政策金利も調整 (=マイナス金利の解除) に動くと思われるため変動型ローンへの影響も懸念されています。これまでの低金利環境で、新規の住宅ローン借り手の約9割は変動型を利用していると言われており、仮に変動型ローンの基準金利が上昇すると生活費の圧迫などから消費の落ち込みにも繋がります。

## 【変動型ローンのしくみ…】

基本的に変動型ローンの金利は2段階です。短期金利をベースに基準金利が決まりそこから一定の優遇幅を差し引き適用金利が決まります。基準金利は2016年のマイナス金利導入時には下がらなかった為、解除後も上昇しない可能性が高いです。一方で優遇幅はマイナス金利下で低下が続いていたので今後上昇の可能性もあります。優遇幅は新規契約時に決まって原則変わらないことから、既に借りている人はマイナス金利解除の影響はなさそうですが、新規に借りる人は適用金利が上がってしまいそうです。動向に注視が必要です。

## 今週の話題

## ◆2月13日は『NISAの日』

## 【解説】

資産所得倍増を掲げる岸田政権のもと2024年よりNISA制度が拡充されます。このこともあり今年NISAの日イベントには岸田首相や閣僚、著名人も参加し話題となっています。今後も制度普及に力を入れていく構えです。

## 【ポイント】

新NISAでは1人あたり非課税枠が最大1,800万円。成人家族が多ければ世帯当たり非課税枠は数千万円になり富裕層ではない個人投資家には十分な大きさです。24年以降は株や投信などほぼ非課税で運用できる環境です。

## 【今後の影響】

NISA利用者へのアンケートでは新NISAの認知度および満足度は総じて高くなっています。反面ほぼ知識無く活用する利用者も多く、正しい資産運用のためにはアドバイザーの存在が不可欠になってきていると言えます。